

令和2年8月28日

第531号

横浜市立日吉台小学校

教育目標

みずから生きる

ともに生きる 日吉台の子

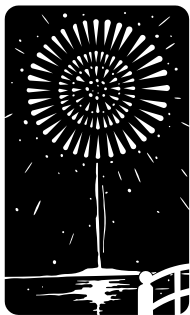
ひよしだい



<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiyoshidai/>

今までに経験したことのない夏休み

校長 玉置 恭美



夏休みが2週間という年を経験したのは、今年が初めてだったと思います。4、5月の臨時休校を経て、学習内容を充実させ、授業時数を確保するために、全国の学校が今年は夏休みを短縮しました。そして、その短い2週間の中でも、県外への外出はなるべく控え、大人数が集まる催しは避ける、ソーシャルディスタンスを保つ等の制約がありました。日吉台小学校会場の盆踊りも中止でした。「夏休みなのに、花火大会に行けなかった」「田舎に行けなかったから海で泳げなかった」と話してくれる子がいました。でも、STAY HOME

の中で、今までの夏休みとは違ったことに挑戦したり、ゆっくり読書に取り組んだり、星空を眺めたり、と工夫を凝らして楽しむこともできたのではないのでしょうか。令和2年の夏休み、暑く短い夏休みでした。

卒業していった中学校1年生のみなさんは、楽しみにしていた部活動でが始まり、「やっと本入部しました」「練習が始まりました」と嬉しそうに報告してくれました。

今年、様々な場面で、『リモート』や『オンライン』という言葉を目にしました。多くの人が集まる会議をオンラインで行ったり、テレビの出演者が一堂に会すことなく収録がされていたり。参加した人もいたのではないかと思います。慶応大学の協力で『オンラインラジオ体操』が行われました。6:30から画面上に各家庭での体操の風景が並びました。同じ場所にいなくても、同じ時間を共有でき、一体感がありました。インターネットの普及は新しい生活習慣の中で、不可欠なものとなっています。大学生はオンライン授業での単位取得、就職の面接もリモートで、など、人と人との関わり方が変わってきていることを感じます。

再度、臨時休校となっても、課題の提示等をスムーズに行えるよう、オンラインでの課題配付や、リモート授業等についての準備も進められています。教職員でZOOMでの授業配信や会議についての研修を行いました。支援員さんの協力で日吉台小学校のICT環境が整備され、パソコンルームを使ってプログラミングを取り入れた授業にも取り組んでいます。

今年の夏、コロナ禍の中、高齢化した遺族の方々が参加する戦没者慰霊の行事も縮小されました。一方で様々な技術の進歩は、日本からはるか彼方の南の島で、戦死した多くの日本人の遺骨が誰のものか、DNA鑑定によって解明できるようになったと聞きます。戦後75年、やっと父の遺骨と対面できたという新聞記事に胸が熱くなりました。平和への思いをさらに強くしました。

